

令和5年度第1回茅野市総合計画審議会 次第

日時 令和5年4月25日(火)
午後6時30分～

場所 茅野市役所 8階大ホール

1 開会

2 会長挨拶

3 副市長挨拶

4 報告事項

- (1) 第6次総合計画構成案に対する主な意見等について 資料1

5 協議事項

- (1) 第6次茅野市総合計画策定の考え方について 資料2

- (2) 第6次茅野市総合計画骨子(案)について 資料3

- (3) 主な意見等から見えてきた課題について 資料4

6 閉会

第6次総合計画構成案に対する主な意見等

○総合計画審議会（2023.2.9）

- ・ アナログの再構築と、デジタルを使う人の人間力を充実させるような意味の言葉を盛り込んでもらいたい。
- ・ 茅野市であればこういったことができるんだ、という気持ちになってもらうことで、一度は出て行った若者に戻ってきてもらえる。
- ・ 縄文時代、この地は全国の交流の拠点であったという歴史をなぞらえれば、現代の交流拠点を構築しようという考えは納得できる。
- ・ 別荘が多い、大学があるなど茅野市ならではの交流拠点のイメージを描くべきであり、その要素が合わさることによる相乗効果も表現できれば良い。
- ・ 「ウェルビーイング」という言葉は市民に身近でわかりやすい言葉とは思えない。横文字を使わず、何か違う言葉を考えた方が良い。
- ・ 「稼ぐ」という言葉は、お金だけの単一的な成果指標になってしまうのでは。「新たな価値を生み出す」というような表現にした方が良い。
- ・ 茅野市らしさを出すべきと言われるが、逆に茅野市らしさがないことで、他地域にも展開できるものになる。他と競争して、奪って来て、茅野市だけが良くなるということではない。
- ・ 交流拠点と、たくましさ、やさしさ、しなやかさの関係がよくわからない。しなやかなまちを目指したら交流拠点に自然になっていくのか、前提と条件の関係性が整理できていない。
- ・ 交流とあるが、市民同士の交流か、市外の人との交流か、どちらを示しているのかがわからない。
- ・ 3つのまちの姿のそれぞれが、やさしさ、しなやかさ、や、たくましさ、しなやかさ、のような2つで括る表現になっているが、2つに限定はできないと思うので、あえて書かなくても良いのではないか。

○地域経営会議（2023.2.13）

- ・ 「稼ぐ」という表現を「新たな価値を生み出す」などの表現にすると、本意が伝わらなくなってしまう。
- ・ 交流が後なのか先なのか、という話があったが、交流がなければ人もカネも来ないという話。
- ・ 現空間だけではなく、ネットを通じた交流もある。そうした交流があるから稼げるまちになるということ。そして、稼げるから人が集まるという好循環が生まれる。

○議会全員協議会（2023.3.1）

- ・ 中心市街地の賑わい創出について、駅西口の今後のあり方が課題の中心になっているが、東口を含めた駅一帯で考えていかないといけないだろう。
- ・ 中心市街地の内容について、構想に基本計画レベルのことが落とし込まれていることに違和感がある。この部分は踏み込み過ぎているのではないか。

○合同会議（2023.3.14）

- ・ マイナンバーカードの普及が急速に進んでいるが、DXなども含めて、こうしたデジタル化の流れに取り残される人がいないように目配りしてほしい。
- ・ 公共施設の再編について、その施設が本当に必要なのかどうかをはっきりさせるべき時期が来ている。
- ・ 自分が考えたら自分が行動するということを基本に考えていくことが大事。
- ・ 「ウェルビーイング」という言葉は良いが、実際に何をやっていくかが大事。総合計画には具体的な事業を位置付けていくと思うが、それが、DXや総合戦略、行財政改革の具体的な内容とつながっていく必要がある。
- ・ パートナーシップのまちづくりにより、行政に負担を強いるのは我々の望むところではない。実践する提言集団として、これからは市の職員から助かっているとされる関係にならないといけない。
- ・ 職員と対等な立場で夢を語り合うような関係になれば、本当の意味でパートナーシップのまちづくりになるだろう。
- ・ コロナで地域の人と人とのつながりが希薄化した。地域の子どもたちを楽しませるようなことをみんなで一緒に考えて実施することが、それを打破する起爆剤になると思う。
- ・ 区の役員はつまらないと思われているからなり手が不足する。面白い活動になれば、自分からやっても良いという人が出てくる。DXによる負担軽減もカギを握るのではないか。
- ・ 行財政改革において、施設の統廃合では根本的な解決は図れない。40年後、50年後の夢を描くことが必要。
- ・ DXを取り入れても、それを必要とする人がいなければ、便利で良いものであっても利用されない。市民の心に響くような取組にしてほしい。
- ・ 若者と女性に選ばれる、というようなキーワードがあると思うが、母になるなら茅野市、のように、もっとわかりやすくダイレクトなメッセージを発信してPRした方が良い。
- ・ 「デジタル田園健康特区」で進めている取組は、本当に若者に選ばれるまちにつながるものなのか。若者に選ばれるまちになるためにどうすべきかをしっかり考えていくべき。

- ・ 外の若者を呼び込む視点も必要だが、市内で生まれ育ち、外に出ていった若者に戻ってきてもらうことも大事。それには、小さい頃にこの地域に愛着を持ってもらえるような楽しい原体験をしているかに加え、地域に戻ってきても自分の居場所や役割がしっかり確保されていることが重要である。

以上

第 6 次茅野市総合計画策定の考え方

1 計画策定の趣旨

新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るい、人々の暮らしに変革をもたらし、ロシアのウクライナ侵攻は、日本経済に大きなインパクトを与えています。一方で、持続可能な社会の実現に向けて、SDGs や脱炭素化などが世界共通の課題に掲げられています。国や県は、こうした世界規模の動きを捉え、ゼロカーボン、DXなどをテーマに新たな取組をスタートしています。

このように、現計画（第5次茅野市総合計画）策定時の想定を超えるレベルで茅野市を取り巻く環境が大きく変化する中、人口減少・少子高齢化も着実に進展しており、今後、茅野市が直面し、解決を求められる課題は、これまで以上に複雑多岐に渡ることが予想されます。

現在茅野市は、こうした課題に対応するため、これまでのまちづくりの仕組みを見直す行財政改革の推進や新たなまちづくりの手段であるDXの活用と、新たな価値観であるGXの共有を進めています。

今後も、目まぐるしい変化が予想される社会経済情勢への確に対応し、茅野市の強みを活かしながら、新たな手段や価値観を取り入れ、持続可能なまちの実現を目指すまちづくりの指針として、第6次茅野市総合計画を策定します。

2 計画の位置付け

茅野市の総合計画は単なる行政計画ではなく、市民と行政が一緒に考え、策定し、実行する、市政経営に係る最上位の計画です。

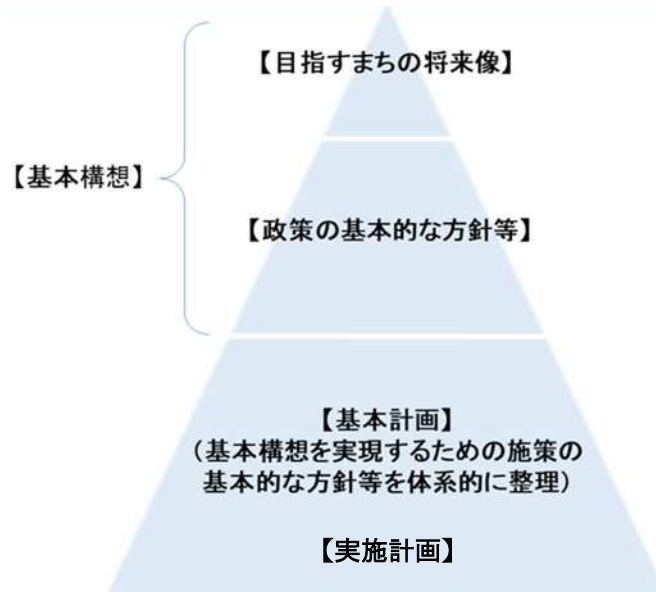
茅野市では、昭和48年度（1973年度）を始期とする第1次総合計画に始まり、これまで5次にわたる総合計画を策定し、時代の変化に応じた目指すべき都市像やそれを実現するための構想を市民と共有してきました。

3 計画策定の根拠

平成23年（2011年）に地方自治法が改正され、地方公共団体に課されていた基本構想の策定は任意となりましたが、茅野市は平成28年（2016年）に第5次茅野市総合計画の策定に合わせて、茅野市総合計画条例を制定し、市の目指すまちの将来像を明らかにするとともに、総合的かつ計画的な市政を推進するため、総合計画を策定することとしています。

4 計画の構成と計画期間

第6次茅野市総合計画は、中長期のまちづくりを見据えた目指すまちの将来像やその将来像を実現するための政策の基本的な方針、土地利用構想等をまとめた「基本構想」と、基本構想を実現するための5年間の取組をまとめた「基本計画」、財政計画と連動した取組を、毎年ローリング方式により見直す「実施計画」により構成します。



5 計画策定の視点

今後5年間に渡って市民と一緒に実行する計画とするために、以下の3つの視点で策定します。

(1) 市民にとって身近でわかりやすい計画とします。

総合計画は行政だけの計画ではなく、市民と行政が役割を分担しながら、一緒に実行する市政経営計画です。市民にとって身近でわかりやすい計画とします。

(2) 財政計画と連動した実効性のある計画とします。

限られた財源を最大限有効に活用するため、財政計画と連動した年次計画を策定することで、実効性のある計画とします。

(3) 効率的・効果的な進行管理や成果の測定が可能な計画とします。

効率的・効果的な進行管理や成果の測定が可能となるよう、目標指標の内容や、数、水準等について適切に設定された計画とします。

6 計画策定の体制

(1) 市民の参画

- ・ 基本構想については、茅野市総合計画条例に基づき設置された総合計画審議会を策定と進行管理を行う組織とします。委員は、パートナーシップのまちづくりを推進する中で各分野に組織された市民団体や関係機関等から選出しています。
- ・ 基本計画については、パートナーシップのまちづくりを推進する中で、これまで市民団体が組織され、分野別計画の策定を行ってきた分野については、引き続き同様の策定体制とします。市民団体等が組織されていない分野については、市民の参画により組織された審議会等を活用するものとします。

＜市民団体等の主な例＞

福祉21茅野	……………	保健・医療・福祉
環境審議会	……………	環境
どんぐりネットワーク茅野	………	子育て
産業振興ビジョン推進委員会	…	産業経済
都市計画審議会	……………	都市基盤

(2) 庁内

- ・ 基本構想については、素案の検討や基本計画策定に関する調整等を総合企画会議で行い、構成員である各部の企画担当部署は適宜部内に展開し、検討した結果を総合企画会議へフィードバックします。
- ・ 総合企画会議における検討結果は、地域経営会議において最終的な機関決定を行います。
- ・ 基本計画については、各分野の所管課にて対応するものとします。

(3) 市議会の関与

- ・ 基本構想については、茅野市総合計画条例に基づき、基本構想（案）を市議会へ上程し、議決を得ます。
- ・ 基本構想、基本計画の策定にあたっては、構想段階、素案段階等の立案段階に応じて議会全員協議会等で説明し、意見交換等を行います。

第6次茅野市総合計画 骨子（案）

全体構成の流れと考え方

○与件の整理

- ・まず、茅野市のまちづくりの成果（強み）を確認
- ・世界や日本の社会経済情勢（脅威、機会）から、それに起因する茅野市の問題（弱み）と、それを解消するために必要なこと（課題）にフォーカス

○基本構想

- ・与件の整理を踏まえ、茅野市のまちづくりの普遍的なテーマ（目的）を見据える中で、この5年で目指すまちの将来像（目標1）を設定
- ・目指すまちの将来像の実現につながる、より具体的なまちの姿（目標2）を設定
- ・与件で整理した茅野市の課題を解決し、目的、目標1、目標2を実現するために行う様々な取組の推進に当たり、ベースとなる考え方や、その流れを次のとおり定義
 - 脅威（ピンチ）を機会（チャンス）に変え、強みで弱みを克服
 - そのために茅野市が持つリソース（資源）を総動員し
 - 必要に応じて新しい手段の活用や価値観の共有を推進

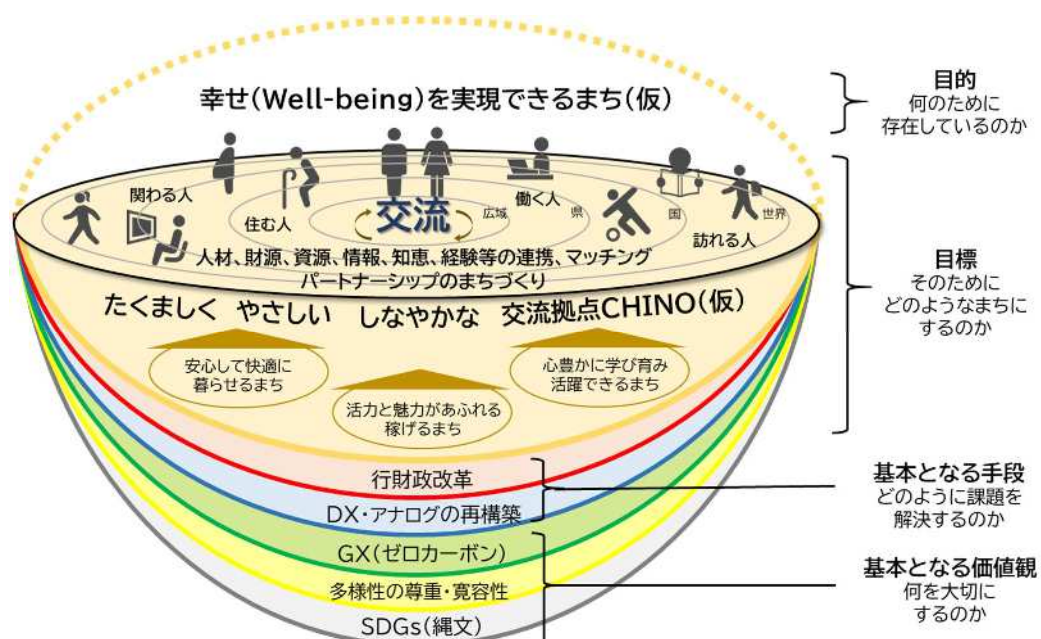
○基本計画

- ・目的、目標1、目標2を実現するための取組を分野で括り、それぞれの分野が目指す姿（目標3）や方針を設定するとともに、主な取組と関連する分野別計画を明示

○実施計画

- ・基本計画に明示した主な取組を中心に、単年度の市政経営方針（目標4）と部の経営方針（目標5）に位置付けた重点的に推進する取組について、進捗管理を実施

まちづくりのイメージ



与件の整理

- 0 茅野市が守り、育んできた大切なもの
これまでのまちづくりの成果を確認（強み）
 - (1) 縄文の文化と精神性
 - (2) 八ヶ岳の豊かな自然環境と人々の交流
 - (3) 市民主導、行政支援によるパートナーシップのまちづくり
 - (4) 人口減少対策に特化した地域創生総合戦略の推進

- 1 茅野市を取り巻く環境の変化
世界、国の社会経済情勢の把握（脅威、機会）
 - (1) 世界規模の社会経済情勢の大きな変化
 - (2) 人口減少・超少子高齢化の進展
 - (3) 多発化、深刻化する自然災害
 - (4) 地域課題の解決を目指したDXの推進
 - (5) 2050年のゼロカーボン達成を軸にしたGXの推進

- 2 茅野市が直面している問題
それに起因する茅野市の問題点にフォーカス（弱み）
 - (1) 人と人とのつながりの希薄化、地域経済の弱体化
 - (2) 地域を支える人材、担い手の不足
 - (3) 多発化、深刻化する自然災害への対応

- 3 大切なものを守るために必要なこと
問題点を解消するために必要なことを提起（課題）
 - (1) 地域の支えあい、助け合いの仕組みの見直し
 - (2) ポストコロナ社会における新たな切り口による人の呼び込み
 - (3) 課題解決の手段としてのDXの活用
 - (4) 地域循環共生圏の形成に向けたGXの推進

基本構想

- 1 これからの茅野市のまちづくりの考え方
 - (1) まちづくりのイメージ
 - (2) まちづくりの普遍的なテーマ（目的）
「幸せを実現できるまち」
 - (3) 目指すまちの将来像（目標1）
「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」
 - (4) まちづくりの手段・価値観
手段 行財政改革、DX、アナログの再構築
価値観 GX、多様性の尊重、寛容性、縄文（SDGs）

- 2 3つのまちの姿（目標2）

事例は基本計画に移行

 - (1) 安心して快適に暮らせるまち
 - (2) 活力と魅力があふれる稼げるまち
 - (3) 心豊かに学び育み活躍できるまち

- 3 まちづくりの3つのポイント
 - (1) 目的志向（ゴールから考える）
目的、目標の達成のために
必要なこと、不要なことを考える。
変えること、変えないことを考える。
 - (2) 未来志向（未来への種まき）
10年後、20年後の未来の茅野市のために、今からできることを考える。
 - (3) 自分ごと化（自分がつくる みんなの茅野市）
目的、目標の達成のために
未来の茅野市のために
それぞれの立場でできることを考え、行動する。

基本計画

今後検討

資料編

人口ビジョン
土地利用構想
統計資料

幸せを実現できるまち

茅野市を訪れる人、茅野市に住む人、働く人、関わりのある人など、あらゆる人が、自己実現を通じて、その人なりの幸せを実現できるまち。そして、その幸せがまた別の誰かの幸せにつながっていくまち。そんなまちを実現することが、茅野市のまちづくりの目的です。

この目的の達成に向けて、「well-Being」という考え方を取り入れ、市民の皆さんが日々の暮らしの中で得られる幸福感を把握し、取組を評価しながら、茅野市のまちづくりを進めていきます。

第6次茅野市総合計画の中で定義する 3つの「Well-Being」

- 誰かが決めた基準や、誰かとの比較ではなく、自分の基準、考え方、評価などにより実感できる幸せ
 - 健康な状態ではないが、家族に囲まれて生活することで感じる幸せ
 - 100点満点ではないが、それまでの努力が実ったことで感じる幸せ
- 一時的、瞬間的に感じる幸せではなく、継続的な「良い状態」「満たされた状態」により実感できる幸せ
 - 自分の生き方に前向きな気持ち、向上心、豊かさなどを生み出してくれる幸せ（状態）
 - 人を受け入れよう、人のために何かしようという気持ちを生み出してくれる幸せ（状態）
- 社会（地域、職場など）で、周りとの関係性の中で感じる幸せ
 - 自分の居場所がある幸せ
 - 自分の役割がある幸せ
 - 自分の存在や力が周りから求められる幸せ
 - 自分らしさが発揮できる幸せ

「Well-Being」という言葉を 計画に入れ込む考え方

- 幸せを追求するのは国民の権利であり、第6次の総合計画でも、あらゆる人が「幸せを実現できるまち」にすることを普遍的なテーマに掲げています。こうしたまちづくりを効果的、効率的に進めるために、国が示している、人の幸せな状態を数値化して把握する「Well-Being指標」を計画の進行管理に取り入れていきたいと考えています。
- 主に若い世代（学生など）が、この言葉を目にすることで、総合計画に関心を持つきっかけになります。
- また、この言葉の意味を調べ、知識を深めることで、人（自分、他人）の幸せに関心を持つきっかけにもなります。

縄文の文化と精神性を 継承するまち

私たちの生活様式、考え方など日本文化と呼べるものは、縄文文化を基調にしていると言われています。

- それまでの移住生活から定住生活を可能にした支え合いや助け合いの生き方
- 住居の材や食料を採る林を大切にし、自然を必要以上に壊さない生き方
- より豊かな生活のために交易を行い、東北や北海道まで黒曜石を運ぶフロンティア精神
- 草を縄にする、土を器にするなど、そこにある資源を上手に活用する知恵と工夫

茅野市は、こうした縄文の文化や精神性を継承するまちづくりを進めています。

これは、第6次の総合計画においても、まちのたくましさ、やさしさ、しなやかさにつながるものであり、ひいては、持続可能な社会の実現を目指すSDGsの目標達成にも大きく寄与します。

縄文の文化と精神性を 計画に入れ込む考え方

- 計画の冒頭には、これまで茅野市がまちづくりで培ってきた財産、強みを明示したいと考えています。
- 縄文の文化と精神性は、茅野市が誇る唯一無二の財産、強みであり、それをこれからのまちづくりにも活かしていきます（縄文プロジェクトの深化）。
- また、それはSDGsの達成にもつながるものです。